

アーカイブ Data Report NO. 32

(2020年8月16日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町10番地 杉山ビル5F
E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

「国選択無形民俗文化財 白鳥の拝殿踊り」のアーカイブ

佐藤正明 (NPO 法人 日本アーカイブ協会)

去る2015年(平成27年)7月9日に白鳥長滝白山神社で開催された発祥祭の様子の資料収集について報告する。

「白鳥おどり」は、神社の拝殿で踊られる「白鳥の拝殿踊り」と町中で踊られる、いわゆる盆踊りがある。白鳥町は白山信仰の拠点「美濃馬場」として多くの修行者、参拝者が集まる場所であった。そのなかで念仏踊りや風流踊りを源流とした「場所踊り」と呼ばれる踊りが楽しめるようになったと言われている。江戸時代になると、神社の拝殿に悪霊よけの「切子灯籠」を吊り下げてその下で踊る「拝殿踊り」が踊られるようになった。「拝殿踊り」は文字通り、板貼りの拝殿で踊られることが特徴で、楽器や太鼓を用いない本来の「拝殿踊り」が前谷白山神社(8月16日)、白鳥神社(8月17日)、貴船神社(8月20日)で開催される。これらに先立ち、7月9日には、長滝白山神社にて「白鳥の拝殿踊り発祥祭」が行われる。

2015年(平成27年)7月9日に行われた「白鳥の拝殿踊り発祥祭」は、拝殿につるされる切子灯籠が、明治時代に作られたと思われ、現在は使われていない「回灯籠(まいとうろう)」が発見され、それを復元して披露される特別な日であった。

復元された「回灯籠」は八角柱状の木の枠の中で、灯明の熱でゆっくり回転する灯籠が映し出す絵が特徴である。製作や飾りつけ等は経験者が少ないことから試行錯誤によって進められたようである。高さが2メートルほどの大きさで、これまで使われていた菱形を組み合わせた切子とは様相が異なる物であった。

撮影について

撮影はデジタルカメラとビデオカメラ各1台を用いた。ビデオカメラは拝殿の後方に固定して撮影した。

撮影に当たっては次のことに留意した。

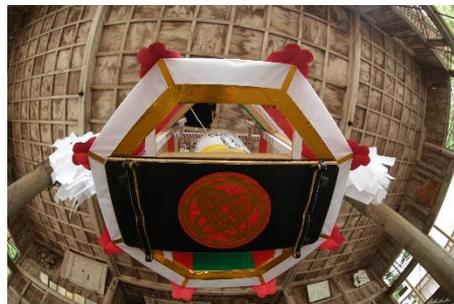
- ① 踊りは回灯籠の明かりの下で踊られることから、補助の照明器具は使用しない。
- ② 発祥祭の初めに神事が行われるが、一連の様子も記録する。
- ③ 拝殿踊りの特徴である下駄で床を鳴らす動作を記録する。
- ④ 再現された回灯籠(切子)をできるだけ詳細に記録する。

収集資料について

① 回灯籠の様子



拝殿につるされた回灯籠



回灯籠の下面（八角形が特徴）



回灯籠と歌い手



回灯籠の全景

② 神事および踊りの様子



神事の様子



回灯籠の下での踊りの様子



拝殿踊りの特徴である足の様子



回灯籠の下での踊りの袖須